

「大地にしっかりと根っこをはる樹木のように…」

自分の足でしっかりと大地をふみしめて、根をはり葉を繁らせる樹木のように育ててほしいという願いを込め、また父親の名前(正樹)から一文字とって、大樹(だいき)と命名しました。平成6年12月のことです。

初めての子どもの誕生に私たちも家族も大喜び、「子は宝」のごとく、大樹の様子に一喜一憂する毎日でした。島根では、一歳の誕生の時に子どもに餅を背負わせ、筆・米・お金・そろばん・はさみを並べて、好きな物を一つとらせ、将来を占う風習があります。大樹は、何度やってもお米…きっと“食いはぐれ”のない子どもに育つのだろうと期待しました。

その彼も今年五歳、元気いっぱい、わがままいっぱい、わんぱく盛りの真っ最中。水遊びと泥んこ遊びが大好き、甘えん坊の大樹です。

そんな彼の楽しみは、トーマスの自転車で散歩にでかけること。



ねえ おかあさん ゆうやけて  
お空がオレンジ色のパジャマをきて  
寝る準備をしているんでしょう

やっほー(やっほー)おおーい(おおーい)  
まねするなー(まねするなー)  
(こだまする山びこにむかって)  
大ちゃんのこと大好きなのかなあ…

大樹の楽しい発想で、見るもの聞くもの触れるもの、まわりの自然や生き物を新鮮な感覚でとらえ、気付かせてくれます。

そんな彼の夢は…「大工さんになって、おおかみにこわされないレンガの家を建てること」です。早くレンガの家ができないかなあ！(父)

「大樹」昭和62年3月15日、予定日よりかなり早く産まれた。

町職員である私は、この年、北海道への研修生として出向していた。

一年間の研修も終了に近づき、妻は大きなおなかを抱え、引っ越しの準備に追われ忙しい日々を送っていた。無理に身体を動かしたのがたたったのか早産の危険性があるとのことで安静の必要が生じた。子を産む苦勞を知らない男(私だけかな?)はいたってノンビリしたもので、事の重大さを理解できないまま連日の夜遅い帰宅、今思えば無事に産まれたから良かったものの、万が一のことであれば妻には一生頭があがらないことになっていたのかも知れない(今はそうになっているのだが)。

妻の実家は岩内なので無事に産まれるようとりあえず実家に帰した。

「無事に産まれたよ」の連絡をもらい、その日のうちに対面、早産なのでとっても小さな子で、初めて会った時は、カプセルのようなものの中に入れられ、大きなサングラスをかけてまるで宇宙人のようだと感じた。

「大樹」と名付けたのには三つの理由がある。

一つ目は、小さかった赤ちゃんが大きく育つようにと願ったこと。

二つ目は、当時研修先で宇宙基地「大樹町」の名に親しみがあったこと。

三つ目は、住んでいた住所が江別市大麻南樹町であったので、大麻南樹町の上と下を取ったこと。三つ目の理由は何となく不マジメのようだが、若かりし頃の研修の思い



出とともに忘れることはないと思う。

山田大樹という名は姓名判断では最悪の画数だそうだ。親としては少し気になってるところなのだが「大樹」が悪いのではなく「山田」の方が悪いのだろうと思っている。勿論本人はそんなことを気にしていることでもなく、中一になった彼は、夏休み中も学校のクラブ活動に毎日元気に通い、母親よりも背も大きくなり、私ももう少しで追い越されるほど成長した。一つ目の願いは今のところ順調にかなえられているが、命名の時に学業のことも気にかければ良かったかなとぜいたくな悩みを感じている。(父)

## 埼玉県大宮市の大樹さん

特別住民番号1501

新聞紙上で募集された「大樹」の名が付いて居りますので応募いたしました。

釧路に住んでいた当時、「大樹町」という名の町があることを知らず、ただ“小さな杉の木が、人々を守り憩わす大きな樹になるように”との願いを込めて付けた長男の名です。“大樹町”の存在を知った時、夫婦で少し驚きました。そして又、今、こんな御縁があるなんて—。

(大樹・母)



## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1502

私が、産声をあげたのが、昭和57年5月31日。

母のおなかの中に10ヶ月いたのだが、なぜか2,300グラムという低体重で生まれた。

そんな訳で、祖父が「樹木のように大きく育ててほしい。」という願いから、「伸樹」と「大樹」の二つの名前が候補に上がった。

その結果、私の両親が「大樹がいいネ！」とすぐに決まり命名した。

以前から、自分の名前は祖父が名付けてくれたということは知っていたが、もうひとつ「伸樹」という名前もあったことを知ったのは最近だ。

小さい頃は、父や母も私の事を「たいき君」なんて呼んでいたらしいが、「今、思い出すと、キモチわる〜い。」と母のひとり言。

小つぶで生まれた私は、しっかり母乳で育ち、今では、身長170センチ、体重53キロ、少々細身だが、いたって健康。サッカー一部で、高校生活をエンジョイしている。

将来、自分と同じ名前前の「大樹町」には絶対一度は訪れてみたい。

そして全国の「大樹さん」何事も前向きでお互いがんばろう！



## 宮城県仙台市の大樹さん

特別住民番号1504

子供を授かったと知った時、男の子だったら「大樹」と名付けようと夫婦二人ですぐに決めました。大地にしっかりと根を下ろして、太くたくましい幹を持ち、青々とした葉をたくさん茂らす—そんな大きな樹の様に丈夫に育ててほしいという願いをこめてつけた名前です。これから益々大変な時代になっていくのしょうから、宮沢賢治の「雨にも負けず 風にも負けず」とまではいかないまでも、少しの事ではへこたれない、しっかりとした「自分」を持った、他人の痛みをわかる様な子に成長してほしいと思っています。

この子のおばあちゃんは、残念ながらこの子の誕生に間に合わずに空に召されましたが、この子が大きな立派な樹に成長してくれたなら、きっと空の上からでもすぐに見つけてくれることでしょう。

今回、偶然にも同名の町があったと知り、本当にこの名前をつけて良かったと喜ん



でいるところです。この子が大きくなったら是非出かけたいと思っています。町の皆様方の健康と発展を心よりお祈り申し上げます。(母)

### 千葉県栄町の大樹さん

特別住民番号1506

私どもの今年8月20日で4歳になる長男は、まさに“大樹”という名前です。はじめは、“たいじゅ”とよませようとしたのですがやっぱり“だいき”と名付けました。名付けた理由は、大樹のごとく心体共に大きく育ち、大樹の下でみんながほっと一休みしてゆくように、だいきもみんなを守る、守れる人に大樹のような人になってほしくて名付けました。



又、今年6月に行われたよい歯のコンクールでも栄町で優秀賞に選んで頂きました。

この記事を見たたん、絶対に応募させて頂こうと思いました。北海道には一度も行ったことはありませんが、以前より北海道にあこがれていたのでは何かないと思いついて出向いていけなかったもので、この機会にたずねてみたいです。宜しく願い致します。(父母)

### 長野県飯島町の大樹さん

特別住民番号1508

僕は、昭和58年1月18日に生まれました。とてもさむい日で、雪も降っていたそうです。

両親も祖父母も、女の子が生まれるのではと思い、女の子の名前ばかり考えていたとのこと。それが男の子だったので、改めて名前を考えなければならず、両親が祖父母に何か考えて良い名前をつけてくれるように頼んだそうです。頼まれた祖父母は家に帰り、色々と辞書を片手に考えましたがなかなかよい名前が考えられずにいたところ、ふとTVに目にやりましたところ北海道の大樹町の話と紹介がありました。見ている内にこの大樹町の大樹を頂いて名前にしたらと思い立ち、早速両親と母親の実兄に相談したところそれは良い名前だと大賛成だったとのこと。苗字から続いて森や谷に大きな樹が育つということも良いことだし大樹と言わず大樹にすることも一同で決まり決定しました。



今、高校二年生ですが成人したら必ず貴町を訪問したいとたのしみにしています。その折には宜しくおねがいします。

### 北海道常呂町の大樹さん

特別住民番号1522

平成6年6月10日に元気な男の子を出産しました。3,755gと大きく生まれたので「大」という字の入った名前をと思い、家族で相談して長谷さんの住んでいる大樹町から頂いて大樹(ヒロキ)と名付けました。

今年の夏(7月16日)に念願だった大樹町への旅もしました。町のいろんなところにある大好きなシャトルに大樹も大喜びでした。また、皆であそびに行きます。(母)

(中條真由美)



### 北海道美瑛町の大樹さん

特別住民番号1523

平成7年6月20日、旭川市内の産院で大樹は生まれました。体重が4,115グラムもあり、ビッグな赤ちゃんでした。しかし、生後二日後、不整脈



がひどく大きな病院に転院し、NICU(新生児集中治療室)で治療する事になりました。色々な検査の中で、低カルシウム血症と診断され、併せて治療していたく事になりました。担当医師・スタッフの方々のおかげで快方にむかい、約三週間ほどで退院する事が出来ました。今はとっても元気です。生まれる前からいくつかの名前の中で「大樹」という名前がいいねと夫婦で話してましたが、病気を乗り越え、強い生命力を持ち、大きく、たくましく、大地に根を張る「大樹」のようにこれからの人生を生きてほしいという想いで命名しました。(父)

---

## 神奈川県川崎市の大樹さん

特別住民番号1525

夏休みも終わり、忙しく、それもまた楽しい毎日が始まりました。大樹もこの夏で5歳になりました。大樹の生まれた時も、今年のようにとても暑い夏だったことを思い出します。



初めての子ということもあって、おなかの中にいる時から、それはそれは大切にされ生まれてきました。

どうぞ健やかに大きくなってネという願いをこめて、パパがつけた“大樹”という名前にぴったりな、3,620gという大きな赤ちゃんでした。

“大ちゃん、大ちゃん”とみんなにかわいがられ、今では毎日楽しく幼稚園に通うまでになりました。大好きな弟と二人わんぱくぶりを発揮しています。

“大ちゃん”あまり小さなことは気にせず、名前のようにドーンとかまえてネ。

そして何よりも元気に育ってくれたら、それが私たちの一番の願いです。(母)

---